

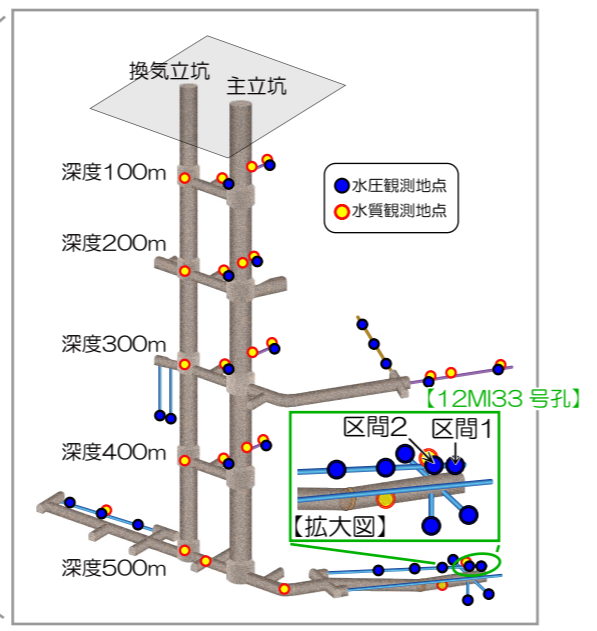
東濃地科学センターでは、研究坑道の埋め戻しに伴う地下水の回復状況を確認するため、瑞浪用地等で地下水環境モニタリング調査を行っています。本調査は令和8年度まで継続する予定としており、今回は令和7年度下期分までの結果をお知らせいたします。

下記の地図に示した地上観測点及び地下坑道内観測点で水圧及び水質の観測を行いました。

〈地上観測点〉



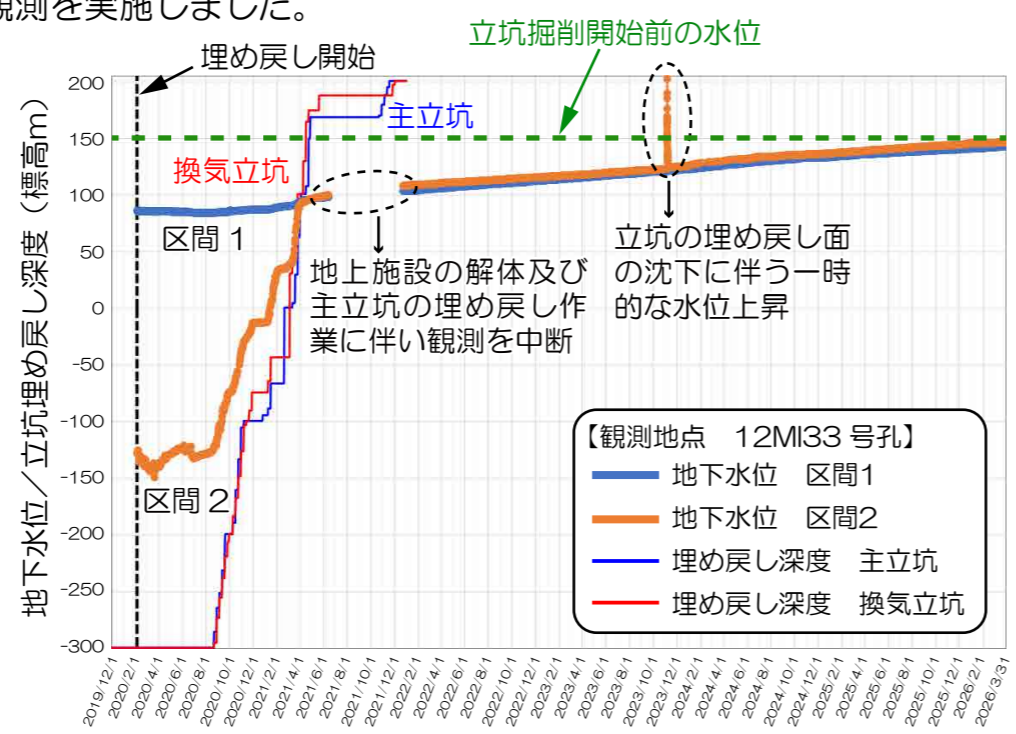
〈坑道内観測点〉



水圧モニタリング結果

令和7年度下期は20地点（地上から掘削したボーリング孔：7地点、坑道から掘削したボーリング孔など：13地点）で観測を実施しました。

右のグラフは、結果の一例です。坑道内の1本のボーリング孔の2つの区間の測定結果を示しています。観測した水圧から求めた地下水の水位は、坑道埋め戻し開始とともに上昇しており、令和7年度下期においても、上昇が続いています。

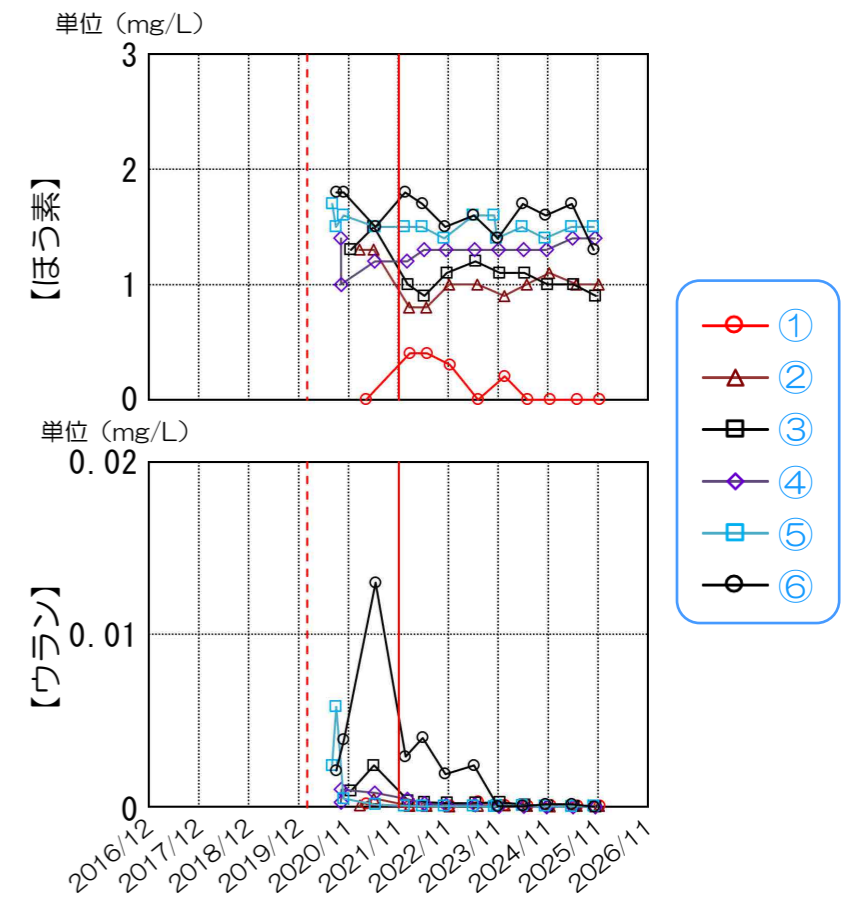
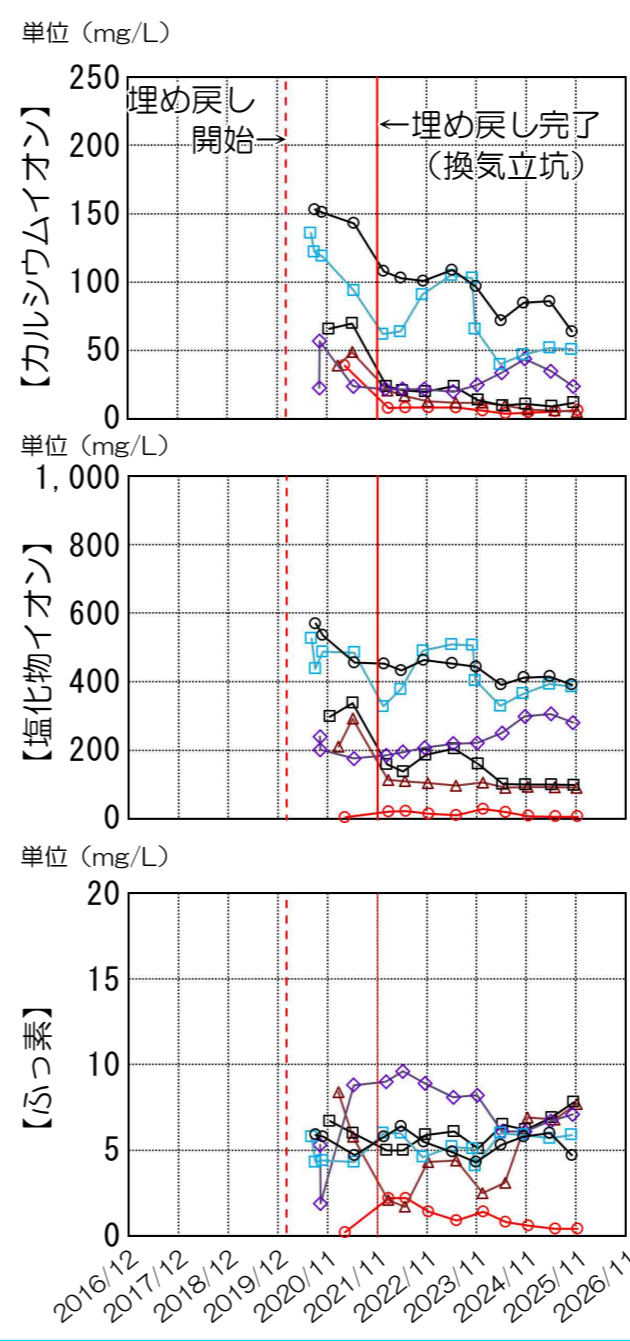
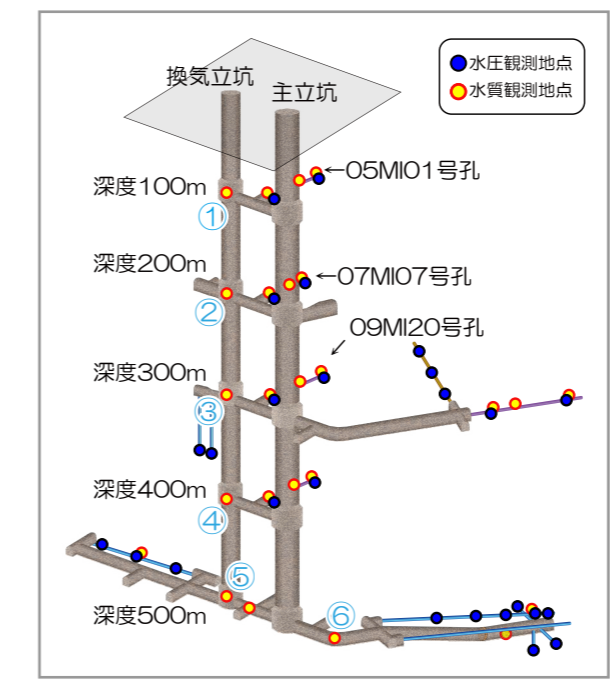


水質モニタリング結果

令和7年度下期は、18地点（地上から掘削したボーリング孔：3地点、坑道から掘削したボーリング孔など：15地点）で溶存成分等51項目（一般的な水質分析項目（水素イオン：pHやナトリウムイオン等）と環境基本法に基づいた環境計量項目（カドミウムや鉛等））の測定を実施しました。結果の一例として、坑道内観測点のうち深度方向と水平方向の分布比較のために選んだ地点①～⑥の結果の一部を下記のグラフに示します。

地下水の水質は、埋め戻し開始時から埋め戻し完了までの変化と比べると時間が経つにつれて小さくなってきました。また、グラフに示した地点①～⑥以外の観測地点及び項目も同様の傾向を示し、その傾向は、令和7年度下期も同様でした。

なお、坑道内観測点（左図の①～⑥、O5MI01、O7MI07、O9MI20号孔）における水質観測は継続しますが、それ以外の坑道内観測点及び地上観測点のボーリング孔（DH-2号孔、MSB-2,4号孔）での水質観測については、用地内の基礎コンクリート等撤去工事に向けた準備として、観測装置を撤去することに伴い、令和7年度で終了しました。

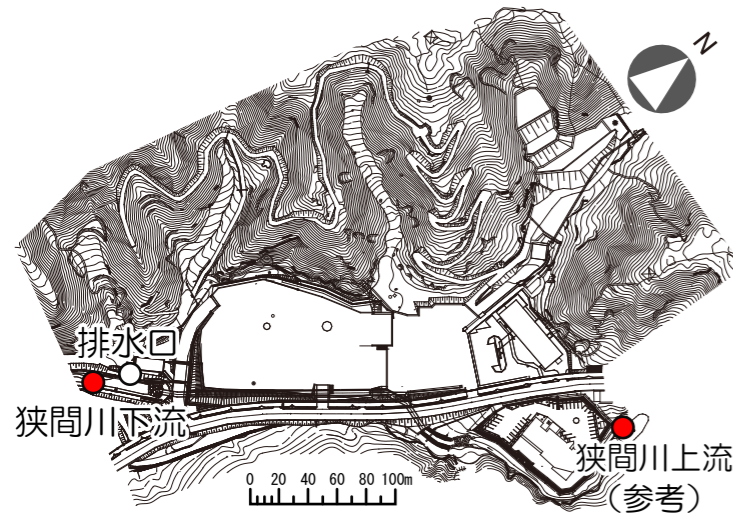


地下水の環境モニタリング調査は、令和8年度まで継続する予定です。なお、観測結果の詳細は、報告書としてとりまとめ公表する予定です。

「瑞浪超深地層研究所に係る環境保全協定書」 第2条に基づく排水水等の測定結果

瑞浪超深地層研究所の研究坑道の埋め戻し終了に伴い、令和3年5月以降、用地内からの工事排水は発生していませんが、狭間川の排水口下流の河川水及び参考として上流の河川水を測定しています。

令和7年度下期の測定結果に異常はありませんでした。



河川水の測定位置図



河川水の採取

【採取日（河川水）：令和7年10月2日、11月6日、12月4日、令和8年1月8日、2月5日、3月5日】

測定項目	管理目標値	狭間川下流	参考値※1	狭間川上流	測定項目	管理目標値	狭間川下流	参考値※1	狭間川上流
水素イオン濃度	6.5～8.5	7.2～7.6	—	6.9～7.2	1,1,1-トリクロロエチレン	1以下	0.0005未満	1以下	0.0005未満
浮遊物質	25以下	1未満	—	1未満～1	1,1,2-トリクロロエチレン	0.006以下	0.0006未満	0.006以下	0.0006未満
カドミウム	0.003以下	0.0003未満	0.003以下	0.0003未満	1,1-ジクロロエチレン	0.1以下	0.002未満	0.1以下	0.002未満
全シアン	検出されないこと※2	ND(0.1未満)※3	検出されないこと※2	ND(0.1未満)※3	1,2-ジクロロエチレン	0.04以下	0.004未満	0.04以下	0.004未満
鉛	0.01以下	0.005未満	0.01以下	0.005未満	1,3-ジクロロプロパン	0.002以下	0.0002未満	0.002以下	0.0002未満
六価クロム	0.02以下	0.02未満	0.02以下	0.02未満	チウラム	0.006以下	0.0006未満	0.006以下	0.0006未満
砒素	0.01以下	0.005未満	0.01以下	0.005未満	シマジン	0.003以下	0.0003未満	0.003以下	0.0003未満
総水銀	0.0005以下	0.0005未満	0.0005以下	0.0005未満	チオベンカルブ	0.02以下	0.002未満	0.02以下	0.002未満
アルキル水銀	検出されないこと※2	ND(0.0005未満)※3	検出されないこと※2	ND(0.0005未満)※3	ベンゼン	0.01以下	0.001未満	0.01以下	0.001未満
PCB	検出されないこと※2	ND(0.0005未満)※3	検出されないこと※2	ND(0.0005未満)※3	セレン	0.01以下	0.002未満	0.01以下	0.002未満
トリクロロエチレン	0.01以下	0.001未満	0.01以下	0.001未満	硝酸性窒素及び亜硝酸性窒素	10以下	0.047～0.25	10以下	0.088～0.57
テトラクロロエチレン	0.01以下	0.0005未満	0.01以下	0.0005未満	ふっ素	0.8以下	0.08未満～0.08	0.8以下	0.08未満
四塩化炭素	0.002以下	0.0002未満	0.002以下	0.0002未満	ほう素	1以下	0.02未満	1以下	0.02未満
ジクロロメタン	0.02以下	0.002未満	0.02以下	0.002未満	1,4-ジオキサン	0.05以下	0.005未満	0.05以下	0.005未満
1,2-ジクロロエチレン	0.004以下	0.0004未満	0.004以下	0.0004未満					

【単 位：mg/L（水素イオン濃度はpH）】

- ※1：狭間川上流は管理対象外であるため、環境基本法の基準値を「参考値」として表示しています。
- ※2：「検出されないこと」とは、測定項目ごとに定められた検定（測定）方法で測定した結果が当該検定方法の定量限界を下回ることを表します。
- ※3：「ND」とは目的の成分が検出できないほど微量か、またはゼロであることを表します。NDの後のカッコ内の数値は検出限界値を表します。

今後も、関係自治体との協定を遵守し、安全の確保と環境の保全を第一に取り組んで参りますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

立坑埋め戻し面の沈下に伴う埋め戻し後の状況

立坑埋め戻し面の沈下については、令和6年3月8日に埋め戻しを完了し、立坑の埋め戻し面の変化量や立坑周辺の地盤の測量を定期的に測定しています。令和8年3月31日現在の状況は、沈下に伴う埋め戻し後の埋め戻し面に、数十センチメートルの変化はみられるものの大きな影響はありません。また、立坑周辺の地盤測量につきましても、変化は見られていません。



沈下部を埋め戻し後の立坑
※青色のネットは坑口への人等の侵入を防ぐための安全ネット

立坑埋め戻し面の沈下に係る測定結果は、QRコードまで



瑞浪用地の土壌調査の結果について

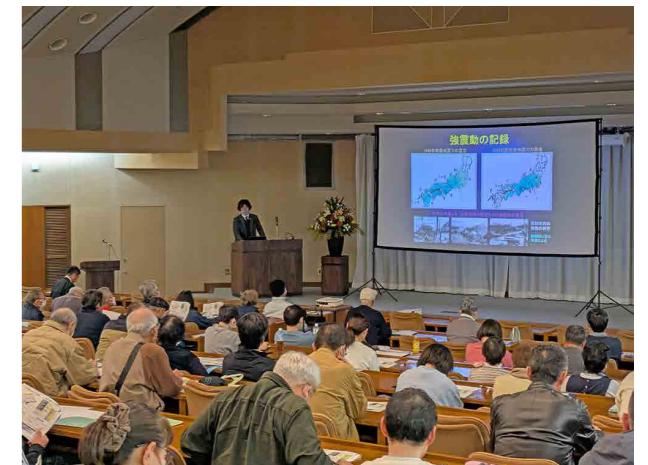
令和8年度から瑞浪用地内の地上部に残された基礎コンクリート等の撤去及び整地工事を実施する予定としています。その際、地盤の掘削により土地の形質が変化することから、土壌汚染対策法に基づき、事前の土壌調査を実施しました。その結果、用地内で調査を行った119地点のうち1地点でふっ素の土壌溶出量が基準を超えている（基準0.8mg/l以下に対して3.2mg/lを検出）ことが分かりましたので、速やかに自治体（岐阜県、瑞浪市）へ報告しました。この調査結果については、岐阜県のホームページで公表されています。今後、土地所有者である瑞浪市と協議し、土壌の入れ替え等の措置を行ってまいります。

東濃地科学センターセミナーを開催しました

令和8年3月1日（日）、セラトピア土岐において、第39回東濃地科学センターセミナーを開催し、約100名の方々にご参加いただきました。

本セミナーでは、東濃地科学センターの事業概要を説明後、大阪公立大学 大学院理学研究科 地球学専攻 廣野哲朗教授より、「来たる南海トラフ地震に備えて～地震発生の巣に迫る！～」と題してご講演いただきました。

講演では、南海トラフ地震で想定されるプレート境界型地震の仕組みや地球深部探査船「ちきゅう」による震源断層の掘削結果等について、写真や映像を交えて、ご紹介いただきました。また、地震への備えとして「今後30年以内に90%以上という高い発生確率とされており、地震を正しく恐れ、正しく備えることが大事。家庭や町内会等で地域の危険箇所や避難場所を確認し、災害への理解と備えを深めることが大切である。」とのお話がありました。



お問い合わせ先 ☎ 0572-53-0211（代表）
📠 0572-55-4114

✉ tono-ck-reply@jaea.go.jp（ご意見・ご要望）

連絡先：東濃地科学センター 総務・共生課 まで

